看護医療
類型通信

つながり

令和８年　　11 月２日（月）　第 18 号
尼崎小田高校　看護医療類型　　西口　諒

「そこ」に行けば、人とつながるチャンスがある。

10 月 10 日(土)に行われた尼崎市民祭りに看護医療・健康類型も 1 年生 4 名、2 年生 6 名、3 年生 3 名の 13 名で参加しました。13 期生(2 年生)が企画した防災フィッシングを行い、総勢 115 名の市民の方が来場して下さいました。小さなお子様と保護者の方も一緒になって、クイズに答えてもらいながら、防災を身近に感じてもらうきっかけとなりました。**「災害を我がことに」「誰も取り残さない防災」「孤立、孤独を防ぐ防災」「高校生に何ができるか」**と、看護医療類型が 10 年以上に渡り、考え続けてきた問いがここでも継続されています。また同級生同士だけでなく、学年を超えて同じ類型に所属する先輩、後輩が協力する姿に**「クラスの横のつながり」**と**「類型の縦のつながり」**を感じることができました。そして、一緒に勇気を持って地域に出ることで、**学校や家庭を超えた「外のつながり」**を得ることができました。この「横と縦と外の人のつながり」が看護医療・健康類型の持つ一番の魅力だと思います。

「そこにいけば人とつながるチャンスがある。つながる中で界隈を超える力が身につく」

これからもそんな場所に看護医療・健康類型がなっていって欲しいと思っています。活動する高校生の姿を見て、本当に大切なものは目に見えないのではないかと日々学ばせて貰っています。今後の活躍にも期待しています！





10 月 18 日(日)には、特別養護老人ホーム 喜楽苑様にて行われた秋祭りに在宅療養班を中心に 2、3 年生の 7 名で参加し、カードゲームを通して高齢者の方々と交流しました。たくさんの笑顔がありました。これまで看護医療では「認知症」や「介護保険制度」「地域包括ケア」「口腔ケア」「ACP」などについて、多くの医療職や行政の方々から、講義を通して学んできました。生徒達の振り返りの中では「介護というものが、自分とは遠い存在だと思っていたが、違うと気付いた」「高齢者を支えるとはどういうことなのか考える機会になった」「人を支えるとは、相手の立場を想像すること、受け入れることなのだと思った」などたくさんの学びが生まれています。知識として学んだことを、交流する中で実践し、**失敗したり、他人に喜んでもらえたりすることで「知識と経験」が結びついていく。**これこそ**「生きた学び」**であるように感じています。自分とは異なる存在と関わり、他者を自分を映す鏡として見ることで、迷い、悩む中で、新たな自分に会うことができると思います。勇気を出して一緒に新しい自分に会いに行きましょう。

「幼児はかつての自分、高齢者はそうなるであろう自分、障がい者はそうだったかもしれない自分」

他者を考えることは自分を考えることです。そんなことを感じられる実践でした。　文責　西口　諒




